

章景追悼

武智鐵 二

——なぜならおれは すこしぐらゐの
仕事ができて そいつに腰をかけてる
やうな そんな多数を一番いやにおも

ふのだ——宮澤賢治

私は章景と何のかゝはりもない。その舞臺の
印象すらさだかではないのだ。この十年ほど、
彼は私の前にあまり姿を見せなかつた。しかも
私に彼を悼む心の強いのはなぜだらうか。たゞ
かひ死んだ人は多い。私も親しい友をうしなつ
てゐる。だが私は歌舞伎を愛する。章景の未來
に俟つものが多かつた。世に青年の死ほど、い
たましいものはない。

章景の舞臺はおほどかであつた。ことに女形

として、女らしくないのが、父雀右衛門に似て、
好もしかつた。この二三年のあひだにものにな
れる人であつた。代役ではあつたけれど、菊五
郎をすら驚嘆させたすしやのお里に、その萌芽
が見られた。この快心の作が置土産であつたの
だ。名人らしい主觀の強さをもつた菊五郎のも
とで、彼は決して幸福ではなかつた。御曹子菊
之助を除いて、天才菊五郎のもとで、物になつ
た俳優はひとりも居ない。これは注目するに足
る現象だ。

廣太郎の書いた追悼文を読んで、魂が痛んだ。
章景と親しかつた人々の話も符合した。章景が
晩年にもつてゐた、時に噴出してはとめど的な

い、やん、ち、や、な、仕、科、と、時、に、モ、ラ、リ、ス、ト、と、呼、ば、れ、る、従、順、な、面、と、こ、の、二、つ、の、奇、妙、な、錯、綜、は、封、建、的、な、芝、居、道、の、崩、ほ、れ、か、ゝ、つ、て、は、あ、る、が、根、強、い、桎、梏、と、ほ、ん、た、う、の、生、き、方、に、生、き、よ、う、と、す、る、若、い、時、代、の、き、び、し、い、意、欲——常、識、的、な、る、も、の、へ、の、反、撥、と、破、壊——と、こ、の、二、つ、の、間、の、眞、劍、な、戦、場、で、あ、つ、た、の、だ、。(俳、優、と、し、て、の、大、成、へ、の、期、待、も、こゝ、に、か、け、ら、れ、る、の、だ、)彼、の、戦、死、は、こ、の、人、間、の、悲、愴、な、戦、場、で、の、名、譽、の、正、し、く、名、譽、の、戦、死、で、も、あ、つ、た、の、だ、。

章景とは、こんなにも立派な人なのだ。聲價さだまり、あまりにも安穩な生涯を終へた老若俳優には一頁を惜しむとも、影のやうに去つた章景のために、追悼の頁を重ねた所以である。

子役時代の章景



梅幸の千代に小太郎をつまめて
(寺小屋)